

千代原頭が行く

関西福中・福高同窓会



20周年記念文集

同窓会に於いては、同期の者の消息が一番気になることでしょう。今号は、出来るだけ多くの期の方の投稿を募りました。これを機に同窓会の輪が更に広がることでしょう。

西
朝
ぼ
ら
け



発行者

関西福中・福高同窓会

発行責任者

大住昌生(高8回)

京都府京田辺市

松井が丘 1-24-11

Tel & Fax 0774-63-4473

関西福中・福高

同窓会事務局

大阪府豊中市東泉丘

3-4 D-811

松岡幹郎(高6回)

Tel & Fax 06-6846-4173

「関西朝ぼらけ」第5号 発刊に寄せて

会長 合屋 嘉人(中20回)

知人に「何ぼしょつとかあ」から尽きぬ会話の糸口がほどこけて、自然と親交の輪が広がっていくと信じます。5月16日の総会には是非ご出席をお願いいたします。

さて、昨年の関西福中・福高同窓会総会に関係者の努力が実って、念願の

200名を突破して217名に達しました。今年も200名を目標にして、毎年これ位の人数を定着させたいと願っています。しかし、大変困難な数字ですので幹事を中心に全員で盛りあげていく必要があると思います。大いに頑張ります。

紙面となつていきます。関係者の皆さん、本当にご苦勞様でした。この新聞は、総会に出席できる方々を中心に送付いたしております。母校や郷土の思い出を共有する私共が、久し振りの友人、



名し、博多
築紫珠
二代目
さんが
の娘
（初
同期生）

つづがなく新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。昨年も国内外ともに事多く、重苦しい一年でしたが、毎晩聴きながら眠りにつくモーツアルトやバッハの調べや、たまに読み返す宮沢賢治の童話の優しさにあらためて人間の持つ限りない可能性を信じ、元氣を取り戻しております。

人間としてこの地球に生まれただけでも運がよいのに、モーツアルトや賢治の後、しかもレコードやCDが発明された後に、そして飛行機が発明されてから100年経ち、外国へも気軽に旅行する時代に生きているなんて何とラッキーなことか、と思います。

不景気でどうこうと不平を言っては調子が当たり



明けまして
おめでとうございます
(年賀状から)

前会長 三笠 正人(中20回)

末筆ながら今年が皆様にとってより穏やかな良い年でありますようお祈りして新年のご挨拶とします。

納涼ビール祭り

と き：平成16年8月26(木)
午後6時30分より
ところ：アサヒスーパードライ(梅新)
Tel 06-6311-2829

中国の十八史客に依れば、宋の太祖趙匡胤は、人生は隙ゆく駒の脚の如し、と申して居ります。

昭和20年卒業以来、56年を経過しましたが同窓生の三分の一が黄泉に旅立つてしまいい感無量のものがあります。愚生は高等小学校から一年遅れで母校に入学、小学時代の級友が二年になって居りました。

当時は「下級生は上級生に必ず敬礼せよ」との軍国主義時代の校則があった。



佐田 季男
(中24回)

私の思想遍歴

戦中戦後

りました。小学時代の友人に敬礼する事には内心駐辱を感じていたが、絶対に何等かの形で超越してやる、というフアイトが敬礼する度に旺盛しました。

同学年の中では、甲種飛行予科練習生(特攻隊員)になり戦場に赴き、戦後無事に生還した愛称イヅの大橋君、ロクさんの石川雅二君と共に、悪の三羽鳥と云われ乍らも、ストリートで旧制佐賀高校、京都大学経済学部に入學する事が出来ました。

では絶対多数で敗北したが、愚生は信念を貫くべく、指導力のある友人達を説得。その輪は燎原の火の如く広がり、第二次の学生大会では圧倒的多数で追放反対が成立。無事一端追放された恩師四名は復学され、その事を一番喜んで下さった。

小津安二郎監督映画の中の

同窓会場面

梅津 明治郎 (高1回)

映画監督小津安二郎の生誕100年と言うことで、いろいろな特集イベントが行われて居る。日本や外国でも人気が高く、広く若男女の関心を集めて居るらしい。戦後、小津映画復活の端緒となった《晩春》は、僕の大学進学の前、昭和24年に公開され、以後その小津調の頂点を極めた《東京物語》は、卒業の年に作られた。

僕が松竹撮影所の公募試験を受験したのは小津、木下の居る会社だったからである。同級生の共通体験は敗戦であった。



現在の母校
正面と中庭の風景

高齢者の生きがい対策 観光ガイド

田原 純一 (高2回)

近年高齢者がますます増加するにつれて定年後どうやって時間を有効に使えばよいか論議されています。京都における対策と体験をのべます。

鏡い友好を深めました。集まった人へのサーブスの一つとして京都は歴史の都であることから観光案内をすれば喜ばれるのではないかと実施担当団体の京都SKYセンターの発案で前年の平成4年にガイド養成講座を作られました。



最初は年寄りに何ができるか?とおもわれ客もなく寂しい思いをしましたが高齢者の体験を元にしたガイドが好評で最近では130名の会員が年間1万件以上の出番で定期観光や修学旅行のガイドに動いています。

来訪者によるこぼれたと思っています。その後このままで終わるのはもったいないの思いから協会を作り出した。

「遠くに在りて」

思ふ」毎日



鬼頭 鎮三 (高3回)

そんな仲間の思い出を胸に、10月には小豆島の遍路を3日間歩いた。散歩に慣れて今は歩くのが楽しい。

春には東京・日本橋から京都・三条大橋まで「仙道を歩く会」の仲間に加わり、彦根から京都まで110キロを3日間、だけ参加した。

途中、まだ開発されていない山道や田園風景に、生まれ育った松崎（今は福岡市東区だが）を連想した。

青春も故郷同様に「遠くに在りて思うもの」なのか。毎日自問している。

古希を迎えて

松岡 茂 (高5回)



昭和26年4月、大学進学で上京した。以来、博多へ帰る機会は、めったになかった。特に昭和27年、両親が上京して家族みんなで住むようになると、妙に博多が遠くなったように思えた。このところ、やけに福中・福高の6年間の出来事が思い出される。来年3月、71歳になる年の所為だろう。

最近、聞くところによると、同級生も随分、鬼籍に入った人が多いという。

種々云つてはくれるが、もともと元氣なせい、か、やつと還暦かなと思つてゐる。

勿論、酒量もあまり変わらず、通勤途中のバスや電車の中では、旅行気分であり、誰にも干渉されず一番自由な時間である。

最近、40代や50代を振り返る時、何とか父親として亭主としてのつとめは、ほぼ大過なく終えた様な気がするが、それとは別に、さして、これと云つた目標や夢があるわけでもないし、何か物足りない毎日であることは事実である。

我々は、共に戦前・戦中・戦後の渦中の中に生き、様々な苦難や、経験を重ねてきたが、又それなりに現在にはない楽しさもあつた。我々の時代はほぼ終わったのかも知れないが、身近に子供達の未来を思う時、又、第二の人生ではないが早々に人生を終えるわけにはいかない。

我々高校4年生の殆んどの人達が本年、古希を迎えた。昔風に思えば好々爺だとか、悠々自適だとか云われていたが、私は未だその気分になれない。

私の家族は還暦や、古希のお祝をしようとかと、

那珂河周辺を散策するがいつも変わらないのは川の流れだけの様だ。

私も一人娘が神戸在住のため、現在のところ、どうしても故里に帰ることができない。望郷の念止まずか、やはり古希相應の年令になったのかも知れない。

戦後58年——第2次大戦では数多くの方々が犠牲になられたが我々世代は、その目に会っていない。それだけでも倅と思わなければならぬと思う。これからの年月、意気盛んとは云えないが、未だ充分に何かの役にたてる様な気がする。

夫婦合和し朋友合信し、同期生の倅を折つて——再会を楽しみにしています。

博多雑感

伊藤 晋 (高5回)

この春、時間つぶしに天神(町)から今川橋まで歩いてみた。昔の道を辿つてみたかったのである。

途中西公園に上り、山の小径から麓の小学校裏へ下りた。ここは私が通っていた国民学校であるが、130年も生き続けた藤がそのまま棚から下がって咲いていたことが嬉しかった。

た。ここから通学の道を歩いたが、途中拡幅された道もあつたけれど入り組んだ路地は、家の形こそ変わっているものの昔のまま、子供の頃の情況がよみがえつてきた。



通学途中で警戒警報が出され、そこから家まで戻つたことなども。市電の貫線が走つていた道は多分北側へ拡幅されたのだらう、その道の南沿いにある平野園の碑は昔のままで立っていた。

“おきゅう”とは福岡の人だけが好んで食するものだが、先日家内が“おきゅう”をスーパーで買つてきた。四角い固まりで、菊の葉の様な形をしていた。“おきゅう”の味はするものものども気分が出なかつた。“おきゅう”はやはり楕円形をした薄い物でなければ“おきゅう”とは思ひ難い。

福岡は外に出ると「博多」の方が通りがいいようだ。博多織や博多人形が有名だからだろうか。「福岡」より語呂が良くて言い易いからだろうか。福岡と博多の違いをいち

いち説いても仕方ないから大抵は黙っているけれど、「博多の空港」はまだ許せるとしても、「博多の天神」は頂けない。福岡国際マラソンでもアウンサーが、平和台から今博多の街へでました」という有様。

いずれこの違いはなくなっていくのだろうか。

この五十有余年

大神 謙吉 (高6回)

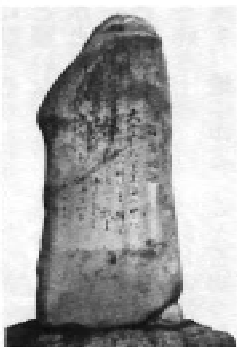


都会の喧騒を離れたクールで白亜の学び舎——福高——その印象は未だに生きている。一年は平山先生、二年武末先生、三年安河先生にお世話になつてゐた。今回武末先生に福岡久会関西ミニ旅行でお会い出来光栄であつた。

英語研究部と美術部に所属。卒業直前の文化祭で英研の英語劇を演出し、受験準備という時流に逆らつて勉強そっちのけで熱中。終つて野郎共梅崎君故三野君等と酒宴。当然の結果、父の強制で受けた九大農科は失敗、一浪し北九大米英科へ。半年で中退。三年遅れて九大英文科へ進学。空手部に入る。半年後神経症に罹つていた。しかし「闘魂」を体得せねばと四年間苦闘する。同期の部員5%しか残存せず。マネージャー歴任。卒業後、関西の貿易商社へ入社。7年後学習塾経営に始めその間英語通訳、予備校講師、有名私立高の専任講師を5才迄続けていた。その後、関西で身につけた大東流合気柔術を教授する大武館道場経営に専念。武道の縁で米国の名誉市民となり今でも現役の師範だ。

美術の方も十年程前から本格的に始め現在、西宮美術協会会員である。

PHOTO



校歌の碑

福呂久会 50年記念

「ミニ修学旅行」

松岡 蒼然 (高6回)



嵐山へ向かう一行を乗せたバスの中で、武末先生の「授業」があり、昔と少しも変わらない先生の語り口に、皆さんは50年前に戻り、懐かしさを覚えました。

前日の雨も見事に晴れ上がった11月12、13日、福呂久会(高6)一行49名は、深まりゆく秋の京都を、恩師の武末照男先生と歩き、京都の秋を楽しみました。

昭和29年に卒業し50周年を記念しての行事、「ミニ修学旅行」と銘打って、福岡、東京からの同級生一行と先生を、関西在住の8名が、新大阪駅で迎ええました。

紅葉は色づき始めたところで、見頃には少し間があるようでした。訪れた天龍寺の裏山からの、遙か東に見渡せる山並みが絶景でした。夕暮れ時の淡い光を背に、嵐山渡月橋のたもとで記念の写真を撮る。

懇親会は宿泊先のリーガロイヤルホテルで、6時に開会。丸テーブルを囲んだ私達のほとんどは、お互いに、この時に初めてのご対面。黙祷、校歌斉唱につづいての第二部は、自己紹介から始まりました。

スピーチがつづく中、「浜辺の歌」や、ムードたっぷりのシャンソンなど、歌の飛び入りもあり、エンタティナー松岡幹郎さんの手品の演技で、会も最高に盛り上がりました。最後は皆さんで肩を組んで輪になり、福高伝統のセレモニ―、「千代原頭」など応援歌の斉唱。

18の昔に戻った同級生一同の歌声は、天井をつき抜け、古都の夜空にこだましました。

翌日は、清水寺、知恩寺と、恩師武末先生と歩んだ、50年「ミニ修学旅行」は無事に終わりました。

関西七福会

永田 善宗 (高7回)

十月二十五日、高校7回卒業の同窓会関西七福会を開催した。今年は時期を例年(毎年関西福中高同窓会総会と同時開催)と変えて、女の子(？)達の希望に合わせて開催し、男子六名、女子三名が参加した。

メンバーとしてはまだ外に五、六名居るが体調不良や当日の都合で欠席を通知してきた。会での懇談になると話題は年柄どうしても、老後の話や健康の話になり勝ちだ。ここ一年経過して再開してみると、健康を害した話や、伴侶をなくした話などが中心となり、お互いに経験や体験を通じて、励ましたり、慰めたりの会になってしまふ。

これから先、年々欠けることはあっても、増えることは決してないのだからお互い身体に充分気を付けて同窓の誼を大切にしようということになる。

水のごとく

久保 晃弘 (高8回)



ゾウもネズミも人間も哺乳動物は心臓の鼓動を20億回打ち終えたとき生命を尽くす。「ゾウの時間ネズミの時間」(本川達雄著)を読んで、第8回卒の仲間たちに数年前に紹介したことがある。

その私が今頃になって再度、ならば私は生命の尽きる前のどの辺にいるのか見当をつけてみようと思った。が、やめた。ガンで胃を4分の3程切除したのが2年半前。術後5年の生存率はX%

という。まずそこを乗り越えてからだ、と思ったからである。

大多数のガンは加齢と共に発病する。ガンは体のどこかに新たに発生した全身の統制に服さない細胞集団である。つまり正常細胞でありながら、遺伝子エラーが生じ蓄積し、同時に修復機構(免疫機能)が低下したため、どんどん増殖していく細胞である。人間の体をつくっている50兆個の正常な細胞は全て老いていくのである。

切除で消滅したのならそれでよい。まだどこかに潜むヤツがいたり、どこかに極小の芽生えがあるのかもしれない。もしそうだとすると、これからは仲良く共存しようと思っている。あまり暴れないようにひっそりとして欲しいと願いながら。上善如水ということばがある。一番いいのは水の如く、である。怒濤のように岩を砕き土砂、巨木を押し流す。地中ゆるやかに伏し、せせらぎをうたい、静かに草花を樹木を育て上げる。水のエネルギーの底知れぬ大きさをいい、輪廻の淵の深さをいうのだろう。水の自然な姿は感動的である。郷里「福岡」の地名の生みの親、黒田官兵衛は如水と号した。秀吉のな

った「おまえの左手は何をしてもらったのだ」。なぜ左手で家康を刺さなかったのだと。自らも天下統一を望んでいた官兵衛は自分の時代が終わったことを知った瞬間でもあった。

その後の官兵衛はひっそりと質素に生涯を送った。正面衝突を避け、殺戮を好まなかった戦略家であり、人間大好きの人情家官兵衛の水の如き生きざまが私には魅力的にうつる。

私は、座右として若いときは「敢為」と書き、その後50代までは「熱き心」と書いた。いまは「如水」と揮毫したいのだが、そこまで自他共に認められる域に達していない。ただし身体だけは、水のごとく自然にまかせようと思う。

星霜

池尻一寛 (高9回)

星霜とは意義深い。

11月22日大阪堂島のホテルでの福高第九回関西同窓会は、出席者こそ十一名とささやかではあったが、中味は過去に例を見ない盛大なものだった。

と言うのもこの年、皆が介護保険受給対象の前

期高齢者65才に達し、世間周知の老境に踏み入れた節目の会合だったからである。

むしろネガティブな生き様を追求している様態のやり取りが互いの心を揺さぶった。

一つは退職を待ち兼ね悠々自適の楽しみ三昧に転身しきった「晴耕雨読派」。二つ目は、なお会社役員や大手企業(団体)の幹部役職で汗している

絵画や「落語・紙芝居」で地域と密着交流している「ボランティア派」の三派に大別された。

これらの在り様は、数年前までは垣間見れなかった新鮮な発見だった。お互いに眼を輝かせながら耳を敬て、時の経つのを忘れ燃えた。星霜とは只者じゃない。

歳月

市橋 和明 (高10回)

先日、中央公会堂での、全国寮歌祭を、ちよつと覗かせてもらいました。オールドボーイ達の都ぞ弥生(北大予科寮歌)、北陽行(これは旧制旅順高校の寮歌です)等の放歌高吟に、感動しました。私は、昭和33年に福高を卒業しましたが、未だその頃は、高下駄はいて、腰に手ぬぐい、蜜カラの気風と旧制高校の叙情に憧れる雰囲気が残っていました。大学の選択も、憧れの寮歌を唄うことが、一つの動機でした。

ところで、私の事務所の若弁護士は、32才、大学の後輩ですが、寮歌を知りません。唄ったこともないそうです。歳月の経過と共に、善し悪しは別にして、生活様式、ものの考え方は勿論、浪漫の気分、対象すら変わったということでしょう。

千代原頭を唄う時、中学の先輩と、私と、最近の卒業生と、その心情に、隔たりがあるのか無いのか。そんなことを考えました。

リサイクル店

を開く

もうひとつ、違う世界を見たいと、33年間の染しかった教師生活に終止符をうったのが53歳。退職3年前より、調査・研究・準備をしていた。リサイクル店を、その年にオープン。地域の1号店になりました。時代の波と良きパートナーに出会えて順調なスタート。



悦子 上山 (高11回)

近所の人達のたまり場、的雰囲気となり、手配者からの生きていくヒントや暮らしの工夫の情報は、私達の財産となった。不要品が再び利用されているのを見ると、やりがいを感じる。5年続いたら、いいと思っていたこの店も、もう9年目。やがて10年後、確実にやってくる老後に、何ができるのか、何がしたいのかを、みつける旅は、もう始まっている。

雑感

森藤 晃宏 (高12回)

毎日「の」人があつたなあ、と天に感謝増え、と同時に、に終の住処を福岡に求める人も少なからずいるようである。

今年もまた12月12日を迎え、我々高校12回卒業生々の連中70余名が博多の地、ホテルオークラに集い旧交を暖めた。私も関西から略毎年出席している。

高校時代の出来事は大半忘却の彼方にあるが、仲間と昔のことを語り合うにつけ、記憶の脳細胞が蘇り、不思議といろいろなことが思い出されるものである。いずれにしても、この年になると、年を追う毎に「サンデー

還暦修学旅行

中川 澄子 (高14回)



9月13日、14日は還暦

を迎えた寿士会の仲間50名弱が43年前の修学旅行の地、京都で総会を持ちました。北海道、関東、近畿、九州からと卒業してから初めての再開もあり博多弁も心なしか少ない気がしたのは、それだけ年月が経ったと言う事でしょう。しかし大いに盛り上がったのは修学旅行の際に配布された「旅のしおり」を大事に保存していた友がいたという驚きとそれを見た時の感激。しかし若

い人には想像もつかない長旅(関西なの)でした。古い映画で観たシーンの様な二食の弁当とお米持参、夜行で早朝大阪駅到着後大阪城での洗面身支度後、二班に別れての京都、奈良、滋賀の神社仏閣観光は道路事情の悪かった当時にかんりの量であり、もう二度と行くことはないであろうとの福高の先生方の生きた教育の現場だったと、子供心に熱心に見学をした思い出があります。

個人的には関西に住んで35年以上になり四季折々京都、奈良を楽しんでいます。が、あの頃の学習が下地になっているように思えます。まだまだ元気と思っている我々の中に時計折報を聞くようになりました。特に最近では、関西同窓会の幹事、米山さんのご不幸には驚きました。しかし今回の出席者の好奇心に溢れる話を聞く限り、我々の人生はまだまだ明るいと思えました。



宣弘 友松 (高13回)

福岡国際マラソンと私

平成15年の今年も12月7日に平和台陸上競技場をスタートして42・196kmを走る福岡国際マラソンが実施された。いつ頃からかは忘れたが、長年頭に焼きついていたコースが変わってしまいいなかなかに馴染めないものがある。テレビの実況中継で、「間もなく、先頭集団は各島橋の手前、国道3号線を跨ぐ臨港線のガードを通過しました。・・・」実はこの箱崎の地区に、県の吏員をしていた父親

の勤務の都合で昭和30年から38年の8年間を過ごした。西鉄の宮地獄線と国道3号線に挟まれ、多々良川に掛かる各島橋の近くに福岡県の官舎があった。そんな地の利でマラソン大会の日には必ず国道に出て応援をしたものだ。この当時は、フィン

は、目の前を走る世界の一流がそんなに大きくもなくどちらかと言えば小柄な人が多かったこともあって「私にも出来るかもしれない」と、すっかり影響を受け一念発起して、毎朝6時起きで、国道3号線を管崎宮前の大鳥居まで約3kmを走って鍛練したものでした。おかげで今でも忍耐力や持久力など精神面でプラスになったと思っています。青春時代の一頁、二頁を十分に記録できるその箱崎の地を毎年、師走になるとこの福岡国際マラソンが思い出させてくれるのです。

卒業40周年記念

同窓会に参加して

林田 直昭 (高15回)

も、部活や体育祭、修学旅行等で、博多弁が飛び交う中、今になって初恋を告白する面々も現れ、大いに盛り上がりました。あつと言う間に楽しい時間が流れ、次回は5年後に神戸で会おうを約束してお開きになりました。青春時代の心の若さを取り戻した一日でした。

探鳥会が

楽しい

神山 弘子

(高16回)

同期の皆さんお忙しいようで、突然の原稿依頼。さあ、どうしましょう。

25年目の同窓会に声をかけていただいたのをきっかけに関西支部の同窓会とお付き合いが始まりました。そして一年ほど前から野鳥の会等に参加するようになりました。集合場所まで無事たどり着けるかハラハラしたり、あれがマガモ、カイツブリと松岡さんの解説付きでないと心もとない初心者ですが、双眼鏡を片手にゆったりした時間を楽しませていただいています。意外に自宅のま

わりにもいろいろな鳥がいて一人で見つけては喜んでいます。危ないおぼしさと見られているかも(?)引つ込み思案で世界が狭くなりがちな私ですが、いろいろな方とおしゃべりできて少し世界が広がりました。そして改めて自分より年上の方たちは戦争体験者なのだと実感することも。

メンと変わらない。大阪でも評判の一風堂(心斎橋北詰)もさっぱりあじの白丸よりもこつてり味の赤丸のほうが圧倒的に注文が多い。

そんな中であつて、元祖長浜ラーメンの味を守っている店が市内四ツ橋の厚生年金会館入口にある。

店名は「博多」、すでに開店30余年にもかかわらず、夫婦とも博多弁丸出しである。もちろん細麺、何から何まですべて長浜ラーメンである。店はかなり老朽化?しているが味は絶品、是非一度賞味されてはいかがか?

ピンチヒッターのつたない一文でした。

一方では事務所スベースが余剰になり、また人件費が圧縮され企業業績に貢献といった見方もある。いずれにせよその存在だけで経済活動に多大な影響を与える人騒がせな世代である。おもえばわが職場でも窓際に陣取っている同輩は皆ここ数年で退職する。さびしいことであるが、これで組織も若返り活性化するのであろう。

さて我々の世代はどのような定年後の人生を歩むのだろうか。職場では誰もそのようなことを、話題にはしない。誰もまだ描けないようだ。年金生活がばら色に映っていた先輩諸兄の時代とは異なり、不安がいっぱい。平均余命を考えると高齢化社会の中で定年後20年、30年の生き方を設計しなければいけない。

私は、定年後福岡に帰り農業を始めるビジョンを描いている。我が「定年

博多
ラーメン考

占部 信廣

(高17回)

我が「定年帰農」考

吉田 芳一 (高18回)

故郷福岡を離れ関西に暮らして36年。学生生活そして企業人としての会社生活で一度も関西を離れることなく過ごしてきた。

我々団塊の世代もあと4、7年で定年を迎える。これを世間では「2007

年問題」として捉えている。我々団塊の世代が大挙して職場を離れる。そのとき我々の世代が長年培ってきた組織運営、課題解決のノウハウ・ナレッジの継承が困難になり、企業の現場が弱体化するのではないかという懸念である。

福岡市の近郊(校区の東の端)の農家出身の私は、福岡に農地が残っている。この農地で大地に鉋をふるい土と戯れ、健康野菜と果実栽培、放し飼いの養鶏で健康卵づくりをする。できた農産物は自家消費、余剰が出れば関西の知人に直送。地域の人々とコミュニケーションし、何らかの地域貢献ができればと願っている。60の手習いで他人に裾分けするほどのものが生産できるか大いに疑問ではあるが、先生は山ほどいる。小学校、中学校の同級生や親類の人々。なんと夢多き定年後であろうか。

昭和39年、私は福岡高校に入学した。其の後は普通の生徒として進級していった。所が三年生の時、私は二つの趣味を持った。喫煙と飲酒とを。日中、喫煙出来る恰好の場所を見つけた。校舎の屋上に。其の部屋の壁はハメ板になっており、隙間がある。そして其処には創立以来の吸殻がうづ高く積っていた。仲間が先輩にいたのだ。私は喜んだ。

或る日の昼下り、突然

我が福高時代の犯罪

西俣 嘉幸 (高19回)

ふと眼を上げると屋上に白い煙が縋りついている。それは暫くすると黒い煙に変わり、量を増していった。赤い龍が登っていった。私は飄然とした。事態を把握したのだ。私は犯罪者になった。突然詩が浮かんだ。黒雲城を壓し城摧けんと欲つす。甲光日に向いて金鱗開く。……

昭和39年、私は福岡高校に入学した。其の後は普通の生徒として進級していった。所が三年生の時、私は二つの趣味を持った。喫煙と飲酒とを。日中、喫煙出来る恰好の場所を見つけた。校舎の屋上に。其の部屋の壁はハメ板になっており、隙間がある。そして其処には創立以来の吸殻がうづ高く積っていた。仲間が先輩にいたのだ。私は喜んだ。

或る日の昼下り、突然

始業開始のベルが鳴った。慌てて私は運動場に飛び出していった。微かに煙っている吸殻を残して。そして其の後の悲劇を予想する事も出来ずに。彼の時以来私は記憶を失っている。

ダブルユーの

母校訪問(?)

鈴木 庸子(高20回)

中学・高校と同じ学校で同じクラスだった、武部(山内)陽子と鈴木(山崎)庸子。2003年6月28日、私たち二人は中学の同窓会に30数年ぶりに出席することになり大阪から博多へ旅立ちました。庸子は、年に数回箱崎の実家に帰省しています。が、陽子は、なんと27歳(??)の時の友人の結婚式に出席したとき以来の博多入りでした。今浦島よろしく。

なんて、漫才みたいな会話をかわしつつ、29日、ここまで来たら是非懐かしの母校を訪ねてみようということになり、福岡高等学校へ行ってみました。

日曜日なので静かで、ゆつくり昔を懐かしむことができました。校門を入ると前庭と玄関の建物は変わらず30年の年月を感じさせませんでした。が、ソテツの木が大きくなっていて玄関上部の校章は隠れて正面からは見えなくなっていました。中庭へ回ってびっくり、あのプールが無い！校庭にまわってまたびっくり、なんか広い！あー専売公社の塀がない！へー！一番のびつくりは、中庭から校舎へのドアの鍵を開けてくれた女生徒がワイワイのです。制服が替わって今風なのと、昔はいなかったよね。あんなかわいっこ(謙虚に認めたりして)正面に回って、「この辺に成績張り出してあったりして・・・つらい思い出が??」。さらに資料室を見つけて、大阪のおばちゃん化している私たちは宿直でこれもかわい礼儀正しい大学生(彼も卒業生でよく相手をしてくれました)をお願いして鍵を開けて見せていただきました。数々のトロフィーと賞状、昔

の制服、体育祭の応援合戦の写真、有名になられた卒業生の資料等々歴史を感じました。

今は女生徒のほうが数が多いそうで、かつての男子校の剛毅な校風はどうなったのかな。華やかで今の福高生はまた違う青春でしょうか。博多山笠には少し早かったのですが、中州流れの飾り山や同じゆかたを着た町衆を見かけて、街は変わっても脈々と伝統は続いているのだなあと感じた二日間でした。

近況など

山下 正博(高22回)

私は福岡離れ30数年大阪におり、九州への帰郷は年数度であり、又、私の甥が福高を卒業し九大農学大学院へ行っています。私の思い出としては文化祭や体育祭の思い出があるだけ。その他クラブ活動はほとんどありません。大阪の地で結婚し、子供が出来てはじめて子供と一緒にするスポーツ、サッカーをコーチとして10年程指導しています。又、3級審判員として試合のコントロールをしています。まずは私の近況と言いますか、現在の余暇の過ごし方を書いてみました。

我が母校

刈田 玲子(高23回)

五、六年前のことだろうか、ある週刊誌の「我が母校」という記事を読んでいた奇妙な感覚を覚えた。高校の校舎の屋上に後から付け足されたような部屋、排気ダクトの音が響くようなその部屋が筆者のクラブの部屋であったという。そこへたどり着くまでの入り組んだ描写を読んだ、私は絶対にここに行つたことがあると思つた。学校名に目を移すと、福岡県立福岡高校の文字があった。

私は、友達を訪ねてよく行つた美術室の窓から差し込む光、雑然と置かれた石膏の像、埃と絵具の混じつた匂いを一気に思い出してた。筆者は芥川賞作家の藤原智美氏であった。氏の生年は私より三年後のので、私と氏が同時期に在学していたことはないと思う。しかしほぼ同時期の福高の後輩にこのような立派な方がいらつしやうて、その方の文章により20年以上も前の福高の思い出を蘇らせることができたということは、とても印象深く、うれしいことであつた。

苦悶(公文)の母になりました。

田村(坂本) 美恵(高27回)

福高を卒業して28年、今年大学受験の息子を持つ母親になりました。あの頃比べて、本当に大変な時代だと思えます。「人生とは自分さがしの旅」という言葉の通り、自己実現は自分自身の力で成し遂げなければならぬ。そして本人の代わり、誰かがその人の人生を生きてあげることなどできないんですよね。身を持って感じてたはずなのに・・・わが息子にどんな時代が来ても生き生きとした、すばらしい人生を送ることができるよう身に付けてあげられたいか・・・自信がありません。

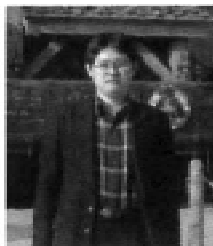
博多と家

板澤 達男(高35回)

博多の新年は「玉せせり」で始まる。「玉せせり」の一月、近所で15mの猪が出て72歳のお婆さんが大怪我をした。駅前から8分程の静かな住宅街だが、大阪の都心から1h離れた自宅は近くに森のある立派な田舎だ。近所のお宅と一緒に畑も作っているし、庭の香草からは毎年キアゲハが解つて飛んでいく。思えば幼少の頃、庭にあつた柑橘系の樹にいた小さなレモン色の卵からアゲハチヨウが毎年孵つた。今住んでいる所も、夜になればちゃんと暗く、冬はきつんと寒いところだ。時代は加速して二年前の機種種の携帯電話も「古い」と言われてしまうようになった。商品を手放してきた時代があるが、「古い」「低価値」という考え方は人間にも及んできている。古いものを大切に出来ぬ新しい世代には、中高年は疎ましく映るの

卓球部の
思いで

山下政一郎 (高40回)



福高に合格した僕は、クラスの名簿を見て驚いた。それは男しかないことである。それはその時まで知らなかった男子クラスである。そのまま3年間男子クラスで過ごした。

中学校で卓球部だった僕は、ボート部などを覗いたが、結局、卓球部の門をたたいた。そして、3年間、勉強と卓球に励み、文武両道の精神で通した。卓球はクラブでは一番下手くそだった。クラブメイトは卓球が強かった中学の人が多かった。それに鍛えられ、ドライブ打法もマスターし、今では、卓球で素人に負けることは無くなった。

同好会だより

野鳥の会

(高6回) 松岡幹郎

卓球は、見た目よりも運動量が多いスポーツである。母親に作ってもらった弁当以外にも、夕方、学食で残り物を安く買って食べた。トーストに蜂蜜を塗った物をクラブの前に食べたりしていた。そのクラブのキャプテンはボウリングが上手だった。僕は当時100点も出せなくて、そのキャプテンが、利き腕と反対の手で僕より良いスコアを出したのには、悔しくて涙が出そうだった。

僕は密かにボウリングを練習して、大学に入つて、帰省の折、卓球部のメンバーでボウリングをすると、みんな驚いてましたね。今では、すっかりボウリングにはまって、独自投法を研究しhttp://www.washinet.or.jp/~sh2s-yms/のホームページを持つようになりました。下手くそですけど。

また、仕事も開発的な仕事で、職務発明では、特許になったものが9件、出願が公開になったものを含めると26件、そして、個人で出願しているものでは、実用新案が1件、と実を結びました。

同窓会を通じて、過去の思い出に触れられるのが楽しみです。



今年正月は暖かい日が続く、その陽光のなか、メジロが残り穂をついている様を見ていると、春がそこまで来ているのを実感します。

さて、昨年は毎月1回探鳥会を行うつもりでしたが、実施出来たのは次の6回で、2ヶ月に1回

旅行の会

「三方五湖で秋を満喫」
(高22回) 占部信廣

今年6回以上の開催を目指しますので、奮ってご参加下さい。

- という結果に終わりました。
- ① 2月22日 京都御苑・植物園、参加者8名
 - ② 3月21日 福島大池、7名、カシラダカ、ジョウビタキ等31種
 - ③ 4月19日 大阪城公園、8名、コリリ等16種

平成15年11月8日(土)本年度の旅行の会日帰りバスツアーを行いました。行き先は福井県三方五湖。一昨年計画したもの、の催行人員不足で流れた因縁の場所です。心配していた参加人数も昨年に続き関西福岡県人会の皆さんの応援により、予定数に近い37名の参加者を

テニスの会

(高6回) 柴田忠良

文化の日は晴が90%という気象庁の記録にも関わらず、4日の未明まで雨が降り、せつかくのテニスも駄目かなとははらさせてくれた天気は晴



今回は杉原さんが参加されて、いつもはあまりやっておられないと言うことでしたが、なかなかの動きをされていました。井浦さん、伊藤さん、大住さんは日頃からテニスをされていますので、前回よりも動きが良くなっている感じが、継続して練習をすることの大切さを見せられたと思います。

どんたく会

(高5回) 杉原行幸

どんたく会は約50名の会員を擁し、春秋2回の定例コンペも第35回を重ねますが、同時開催の過去4回の優勝杯取切戦出場者：上村(9回生)井上博(10回)土橋(10回)内屋(26回)の各氏はいずれも近年の入会者である事が示すように、最近強い人、若い人の入会が増えているのは喜ばしい事です。

今年も以前読売巨人軍

得て、いざスタート。中国自動車道から舞鶴自動車道を経て、最初の訪問地は高浜町にある若狭たかはまエールランド。熱帯植物の温室に作られた池をアマゾンに生息する巨大な淡水魚が悠然と泳ぐ姿は圧巻でした。

バスは若狭路を一路東へ。当日の宴会場所である千鳥苑では、解禁になった越前蟹を(予算の関係で少々ではありませんが)賞味。

前回は昼食の前後にゲームをやったことで、昼休みにビールを楽しむながらテニス談義に花が咲きました。3時間楽しんだ後は場所を変えての昼食(アルコール抜きは残念でした)、解散でした。次回は昼休みをいれたいと思っています。

テニスの会のメンバーは現在6名、恐らく多くの会員の方々がテニスをなさっておられることと思います。関西福岡中福高同窓会ホームページで入会をお待ちしています。

代表も勤められた12回の山室寛之氏が読売ゴルフの社長として着任入会された関係で、第35回は読売パブリック開催です。

ただ泣き所は修猷對抗戦に4連敗していること。修猷の幹事がゴルフ場の社長ということで、従来は修猷のホームグラウンドで開催した事と修猷の年齢層が若いことが敗因の一部でしたが、当方も補強が進んで前回、前々回とも2チームを残して同点、勝つかドローまでいって最後若手2チームの惜敗で涙を吞みました。

今回は会場を読売に移し6月6日(日)に雪辱戦を挑みますので奮ってご参加下さい。入会希望者は杉原(TEL&FAX 0797-3510769)へどうぞ。

囲碁の会

(高13回) 桑野知泰

囲碁同好会第3回「ウロ・ウロ会」対修猷館「円敵会」対抗戦に快勝!

平成16年1月10日(土)第3回対修猷館囲碁対抗戦が行なわれ、合屋会長を総大将とする我が福中・福高同窓会「ウロ・ウロ会」戦士8名が参戦しました。

各人が三戦づつ闘い、「ウロ・ウロ会」が20勝4敗と快勝し、過去の2連敗のうっぶんをはらしました。

「ウロ・ウロ会」は出場した8名のうち5名が3連勝という快挙を成し遂げました。

敗れた「円敵会」の大将石黒氏は「今回は監督の援配に問題があった」と対戦相手の組合せを敗因として述べておられました。

大会終了後、会場のビルの地下ビヤホールでいつものとおり懇親会を行ない、合屋会長が勝利宣言し、博多一本締で氣勢を上げました。

「ウロ・ウロ会」は今年で発足満2年となりました。

毎月末土曜日に例会を開催し、会員の親交をあたため、年2回、今ご紹介した修猷館「円敵会」との対抗戦を行っており、現在合屋会長のもとと会員数15名で運営しております。

入会随時ですのでお待ちしています。

世話役：高13回桑野知泰

(連絡先)

TEL

0797-3810859

FAX

0797-382395

歩こう会

(高11回) 三浦 元

《山行記「武士の道」より》
やっぱ雨か。「怒れる十三人」のハイカー。

皆、福岡出身の老男女のグループ。茨木の奥、竜仙峡口のパス停におり立つ。東海道人自然歩道を清流(安威川の上流)に沿って登攀。川原の大小の岩、生い茂る夏草、どれも皆濡れて光っている。



突然視界が開けた。思わず息を飲む。

蕩々と流れる落差十三米の水の柱。(これが竜仙峡の滝か)もみじの巨木が亭々と枝を広げ、青葉の天蓋をなす。滝つぼを高巻きして尾根に出る。

「武士の道」は明智道とも呼ばれる秘密の軍用路だった。

今は明るいくぬぎ林や鬱蒼たる藪のトンネルを成す。(後略)

歩こう会 年間予定

詳細は
TEL・FAX 072-838-5374
三浦まで問合せ下さい

4月18日(日) 二上山
5月8日(土) 大山崎
6月13日(日) 安土城

7月4日(日) 御殿山
8月22日(日) 六甲植物園
9月12日(日) 大文字山

10月3日(日) 岩湧山
11月20日(土) 観心寺
12月19日(日) ミステリアイク(三浦編)
納山忘年会

山野草の会

(高16回) 佐藤光男

平成16年4月4日(日)
豊能町の妙見山への登山
道で行う予定です。



二輪草、エンレイソウ、マタタビ、サルナシの花などを観察したいと思います。
集合場所、時間は余野バス停(終点) 10:00とします。



同窓会発足 20周年に思う

幹事長 大住 旦生(高8回)



り変化しつつあることを実感いたしました。
発足当分の幹事は、豊原義博(高4)先輩をはじめ45歳から50歳の働き盛りの方々が中心になって会を盛り上げてこられました。現在の幹事は60歳から70歳のオールスターが中心になってしましました。
同窓会の活性化のためにも、是非10歳から15歳若い世代の方々に大いに頑張ってもらいたいと思っております。
ところで、去年は20周年なので名簿を更新し、全員に総

幹事長を仰せつかつて3年が経過しましたが、昨年は同窓会発足20周年の節目の年、沈滞ムードの漂う中かなりブレッシャーがかかりました。
幸いにも当番幹事を中心に各学年一致協力して取り組んでいただいた甲斐あって、出席者が初めて200名を越す盛大な総会を開催することが出来ました。心より感謝いたしております。
準備をすすめる中で、20年という時の経過とともに、社会情勢の変化、価値観の多様化など同窓会のあり方もかなり

同期生の存在を知ることによって初めて100年の歴史を持つ福中・福高の真の姿にふれた思いでした。
今ではじぶんも福高という大樹の中の一人なのだと感じるようになりました。
同窓会とはそんなものかも知れません。思い切って関西福中・福高同窓会に飛び込んでみてください。きっと何か思いが変わると思います。
今後、この同窓会をより大きく、楽しいものにしていくのは皆さん一人一人なのです。よろしく願います。

■ 会計係より ■

井上 啓子 (高22)

会計からの15年度のおおよその報告です。

収入は年会費が66.7万円、総会費が137.6万円、その他雑収入をあわせると220.1万円となります。

支出の方は運営費79.1万円(関西朝ばらけ23.4万円、名簿35.2万円を含む)総会費が150.0万円で、合計229.1万円となります。

総会では、多少のマイナスが出ましたが、当番幹事をはじめ皆様方の努力により200人という例年のほぼ2倍に当たる出席者数を実現することが出来ました。

このことにより、例年の倍近い年会費の収入があったことは、とても嬉しいことでした。

まだ年度途中につき概算での報告になります。

詳細については総会にて報告致します。

平成16年度年次事業計画

	行 事 予 定	出 席 者
4月上旬	合同幹事会 総会関係・予算決算審議	常任幹事・学年幹事・当番幹事
5月16日	第21回・同窓会総会	会員全員
6月下旬	当番幹事引継ぎ会	常任幹事・新旧当番幹事
7月		
8月下旬	納涼大会	会員有志(学年幹事より連絡)
9月		
10月中旬	学年幹事会 総会関係・その他	連絡調整部・学年幹事・当番幹事
11月中旬	常任幹事会 総会関係・新年会関係	常任幹事・当番幹事
12月		
1月下旬	新年会・(臨時常任幹事会)	新旧役員・会員有志
2月		
3月上旬	総会調整会議	常任幹事・当番幹事

会 費

7000円

問合せ 安河内(090-1085-4805)

ただし、高校41回以降

5000円

学生・同伴家族

2000円

とき 平成16年6月13日(日)
受付開始10時 総会11時 懇親会12時
ところ 福岡国際会議場
(福岡市博多区石城町2-1
福岡サンパレス隣)

総会・懇親会は左記の日程で行われる。
世話係は高校40回卒。

「今年も逢おう。今年こそ逢おう。
お〜い、きんしゃ〜い!」

平成16年度福中・福高同窓会総会

会 費 6500円

とき 平成16年5月16日(日) 11時〜14時
ところ ホテル・アウイナ(近鉄上本町駅南すぐ)
TEL 03-3432-7261

・講演「博多のこりよんさん」・

関西福中・福高同窓会第21回総会・懇親会

占部 信廣 (高17回)

平成16年度の総会が左記のとおり開催されます。昨年多数の参加を得て、かつてない盛り上がりを見せました。本年もこれに負けじと新企画をたくさん盛り込んでいます。特に今回は、懐かしい旧友と心ゆくまで話したい、ただけるようにと、広い会場を取り、着席形式としました。参加費用も抑えました。今回もきつと満足いただけます。多数の参加をお待ちします。

編集後記

巻頭見出し句解題。原頭とは野原のほとりの意。従って千代原頭とは、博多が誇る千代の松原の一角、という場所を示す固有名詞である。だがこの言葉は、福中・福高出身者にとつて、青春の日々を共にした校舎や、師・友を想起させる特有の響を持つ。さらに、応援歌「千代原頭」を熱唱してきた仲間達、の意も込めた。今回の投稿は少なかつたが、若い後輩諸氏に、「千代原頭」が引継がれてゆくことを信じて疑わない。

(高11回) 三浦 元

東京福中・福高同窓会 総会・懇親会

“母校と会場の2元生中継”

とき 平成16年4月24日(土)午後2時より

ところ 虎の門パストラル(鳳凰の間)

TEL 03-3432-7261

会 費 8000円